

2023年度  
講義概要（シラバス）  
3年生

松江総合医療専門学校  
理学療法学科

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法研究法	単位数	2	開講年次	3年
担当教員	馬庭春樹	実務経験		理学療法士として総合病院での実務経験あり	
授業形態	講義				
授業内容	研究課程を On-The-Job Training 形式で体験し、論文のレビュー、臨床疑問の定式化、研究計画の立案、データの収集、データの解析、研究内容の発表などの方法を学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	① 研究論文を読む意義を理解し、適切に読み解く能力を修得する ② 臨床疑問を解決するための適切な研究計画を立案する能力を修得する ③ エビデンスに基づく理学療法実践の展開力を身につける ④ 研究発表を通してプレゼンテーション能力を修得する				
到達目標 (行動目標)	① 統計の必要性、統計用語、統計手法の選択について説明できる ② エビデンスに基づく理学療法のステップ、エビデンスレベルについて説明できる ③ 先行研究を批判的に吟味することができる ④ 自らの疑問に基づき先行研究を検索し、適切な研究デザインを選択できる ⑤ 担当教員の助言のもと、研究計画を立案することができる ⑥ 研究内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる				
回数	授業計画				
1	理学療法士が研究を行う意義・概要				
2	クリニカルクエスションの見つけ方				
3	リサーチクエスションの生成方法				
4	文献レビューの方法				
5	研究計画書の作成方法（研究デザイン、研究方法）				
6	統計学の基礎知識				
7	統計解析の実際（統計ソフトの使い方）				
8	研究結果の考察				
9	研究結果の公表について（学会発表、論文執筆）				
10	グループワーク①（クリニカルクエスションの決定）				
11	グループワーク②（リサーチクエスションの決定）				
12	グループワーク③（文献レビュー）				
13	グループワーク④（研究計画書[方法]の作成）				
14	グループワーク⑤（研究計画書[仮説]の作成）				
15	グループワーク⑥（研究計画の発表）				
成績評価	提出物（50%）、授業態度（50%）にて評価する				
教科書及び参考書	「標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法」第3版（医学書院）				
教材 <small>（例：パソコン・プロジェクター）</small>	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス	<a href="mailto:hm.matsue@gmail.com">hm.matsue@gmail.com</a>				
備考（受講に際する留意点など）					
文献レビューなどではPC、携帯電話、タブレット端末での検索を行うが、必要な作業以外では使用しないこと。グループワークを行うが、グループ内にて役割分担を行い、各自が協力して取り組むこと。					

科目区分	専門分野	履修条件		
科目名	理学療法管理学	単位数	2	開講年次 3年
担当教員	内田 武	実務経験	理学療法士として総合病院での実務経験あり	
授業形態	講義			
授業内容	様々な臨床の症例を通して、理学療法管理に必要な内容を学ぶ。今までに学んだ疾患に対する知識を深めると共に、理学療法をマネジメントするという観点から、検査法や治療法まで学習して、実践できるように学ぶ。			
授業科目の 学習教育目標	理学療法として勤務する場合、対象者のもっているリスクを把握することは当然のこと、危機を防ぐマネジメント能力が不可欠である。本講義では臨床の場を中心に、急性期を始め様々な時期や目的における管理・マネジメント全般について取り上げ、実技を含めながら理解を深める。			
到達目標 (行動目標)	<p>○理学療法管理において、組織運営や職場管理、業務の内容について理解できる。</p> <p>○様々な対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。</p> <p>○個々の対象者に対して必要なマネジメントを構築し、理学療法プランを立てることができる。</p>			
回数	授業計画			
1	理学療法管理学概論			
2	組織運営のマネジメント			
3	理学療法士の職場管理、業務のマネジメント			
4	リスク管理			
5	疾患別・病期別・目的別・療法士別の理学療法マネジメント			
6				
7	・疾患別・病期時期のマネジメント			
8	・目的別のマネジメント			
9	・療法士別のマネジメント"			
10				
11				
12				
13				
14				
15	管理学まとめ			
成績評価	課題レポート等で評価する			
教科書及び参考書	随時配布			
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	パソコン、配布資料			
メールアドレス				
備考（受講に際する留意点など）				

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法技術論Ⅴ (近代理学療法)	単位数	2	開講年次	3年
担当教員	PT 学科教員	実務経験	理学療法士として総合病院での実務経験あり		
授業形態	講義				
授業内容	近年、理学療法士の職域拡大に伴い対象となる疾患や障害は増加傾向にある。 本科目では「これからの理学療法」を念頭に各項に対して学習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法士の職域拡大を知るとともに各項に対して概要や理学療法士としての関わり方を理解する。				
到達目標 (行動目標)	上記内容を踏まえて、専門用語を使い各項の説明ができるようになる。 また今後予想される理学療法士の職域について自らの意見が述べられるようになる。				
回数	授業計画				
1	がん患者の理学療法①				
2	がん患者の理学療法②				
3	ウィメンズヘルスと理学療法①				
4	ウィメンズヘルスと理学療法②				
5	精神疾患における理学療法①				
6	精神疾患における理学療法②				
7	災害時の理学療法①				
8	災害時の理学療法②				
9	終末期における理学療法①				
10	終末期における理学療法②				
11	産業における理学療法				
12	学校保健における理学療法				
13	スポーツ活動支援における理学療法①				
14	スポーツ活動支援における理学療法②				
15	国際支援における理学療法				
成績評価	筆記試験、出席など総合的に評価する				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>					
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	臨床実習Ⅱ	単位数	16	開講年次	3年
担当教員	PT 学科教員	実務経験	理学療法士として病院での実務経験あり		
授業形態	診療参加型臨床実習				
授業内容	実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を総合的に実習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法の流れを理解し、臨床内容の意義を理解した言動を取る。 チーム職種の考え、行動を理解し、チーム職種が考えた臨床推論について説明できる。 自らの考えを模倣的に発する経験を積む。				
到達目標 (行動目標)	①理学療法士としての基本的姿勢を身につける。(身だしなみ、言葉遣い、規則厳守) ②患者様に対して医療人としての対応ができる。 ③理学療法士の施設での位置づけ、業務内容が理解できる。 ④臨床実習に意欲的、積極的に取り組むことができる。 ⑤評価に必要な情報を他部門やカルテより収集できる。 ⑥妥当性のある目標の設定ができる。 ⑦仮説立案をして問題点の抽出ができる。 ⑧抽出した問題点に対して、必要な検査・測定ができる。 ⑨検査測定の結果について解釈ができる。 ⑩治療プログラムの立案ができる。 ⑪基本的な理学療法治療を、指導を受けながら適切に実施できる。 ⑫記録・報告が適切な時期・方法で行える。				
授業計画					
臨床実習Ⅱ（16単位）は2回（2期）に分けて実施する。 客観的臨床能力試験（OSCE:2時間） 実習施設における実習（640時間：1期320時間） "・見学、模倣、実施を段階的に指導者の判断の下、リスクの低い患者様、指導の下、実施可能な患者様において評価、治療等を行う。 ・日々の関りの中で、入院から退院までの流れを知るとともに、ゴール設定、問題点の抽出、治療プログラム立案の考え方を指導者より学ぶ。 実習施設：医療提供施設（病院、診療所、老人保健施設） 課題（76時間）：自己チェックシート、問題点と努力目標（実習前後に記入） 臨床能力総合試験（OSCE：2時間）					
成績評価	提出物、実習評価表およびOSCEの結果より総合的に判断する。				
教科書及び参考書	特に指定しない				
教材 <small>(例：パソコン・プロジェクター)</small>	特に指定しない				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
これまでの学習内容や、評価・検査に関する技術などを確認しておくこと。 臨床実習Ⅰで、介護老人保健施設や特別養護老人ホームで実習を行った者は、2回とも病院もしくは診療所で実習を行う。 臨床実習Ⅰで、病院又は診療所で実習を行った者は、1回か2回、病院もしくは診療所で実習を行う。					